

昨年10月に売り出した樹木葬靈園「グレイヴパークパルム」（安来市沢町、59区画）が好評のため、他地域でも展開していく方針で、その一環で整備した。

## 本多石材店→2カ所目の樹木葬靈園

138区画

1年内の完売目指す



宍道湖を望む高台にある天倫寺の敷地の一角で、80平方メートル。芝生を敷き、シンボルとして八重桜の苗木を数本植樹している。各区画に置いたプレート石の下に納骨する形式

墓石販売の(有)本多石材店（安来市伯太町東母里、本多修社長）が、松江市堂形町の臨済宗天倫寺内に、同社2カ所目の樹木葬靈園として「グレイヴパーク松江」を開設した。樹木葬は管理や承継が不要な永代供養墓の形態で、核家族化が進み、墓地の確保も難しい県都での需要を見込んだ。138区画を設け、1年内の完売を目指している。

## 「グレイヴパーク松江」開設

で、夫婦用42区画、4人用48区画、家族用48区画を用意した。基本料金（税別）は夫婦用60万円（1人使用は50万円）、4人用80万円、家族用120万円で、納骨料は1人3万円。13年間使用で、その後は合祀墓に移して永代供養とする。

10月13日に販売開始し、11月7日までに55区画が契約もしくは仮予約となつた。樹木

葬の138区画とは別に、土に直接納骨する自然葬（1人用、標準価格税別41万円）も60区画設けている。本多石材店が展開する樹木葬靈園のビジネスモデルは、寺院に委託する代わりに、区画の売り上げの一部を手数料として寺院に支払う仕組み。今後も山陰両県の市域で計4カ所開設する予定という。

（小村海）

## 景気判断「緩やかな回復を続いている」前月の判断据え置き

山陰両県の10月の金融経済動向の評価

概況	緩やかな回復を続いている
個人消費	基調として底堅い動きが続いている（基調として底堅い動きが続いている。また、観光面における平成30年7月豪雨に伴う影響については、足もとでは「影響がほぼ解消した」との声が多く聞かれている）
住宅投資	弱含んで推移している
設備投資	受注や収益の好調を背景に水準を切り上げている
公共投資	弱含んで推移している
生産	振れはあるものの、高操業が続いている
雇用・所得	振れはあるものの、着実な改善傾向にある

( ) 内は9月の評価。個人消費以外は9月と同じ

### 日銀松江支店10月金融経済動向

日銀松江支店（松江市母衣町、花尻哲郎支店長）は山陰両県の10月の金融経済動向で、景気判断を「緩やかな回復を続いている」とし、

前月の判断を据え置いた。前月まで2カ月連続で上方修正していた。判断の基となる6項目の評価も、前月から据え置いた。こ

住宅投資は、貸家や分譲は水準を切り下げており、全体は弱含んで推移している中で、持ち家は高水準。消費税増税を控え、展示場への来場者も増えているという。

（佐野卓矢）

生産は電気部品・デバイスが車載やスマートフォン・タブレット向けなどで高水準を維持。鉄鋼は自動車向けを中心に緩やかな増加傾向にある。一般機械を含め足元の動きは好調だが、一部企業で中国向けの受注が弱まっているとの声がある。食料品、木材、木製品は高水準で推移。繊維は横ばいで、紙・パルプは弱めの動きになつていている。

のうち個人消費は、前月までに西日本豪雨関連の表現をなくして「基調として底堅い動きが続いている」とした。業界別の動向では、百貨店は台風などの天候要因で来店客が減少し、売上高の前年割れが続く。ホームセンターは主力の園芸商品を中心に落ち込んだが、10月中旬以降は天候が落ち着いて持ち直している。観光関連も台風の影響を一部受けたが、宿泊客数は堅調に推移。自動車販売は来年10月の消費税率10%への引き上げを控え、展示場の来場者数が増えつつあるという。

生産は電気部品・デバイスが車載やスマートフォン・タブレット向けなどで高水準を維持。鉄鋼は自動車向けを中心に緩やかな増加傾向にある。一般機械を含め足元の動きは好調だが、一部企業で中国向けの受注が弱まっているとの声がある。食料品、木材、木製品は高水準で推移。繊維は横ばいで、紙・パルプは弱めの動きになつていている。